

【子どもアシストセンター紹介編】

◎ 調査員・相談員のコラム

「吐き出すということ【千と千尋の神隠し】」 (飯村 子どもの権利相談員)

「農作業は辛いけど役に立つ」 (近藤 子どもの権利相談員)

「みなさんは、3種類の趣味を持っていますか？」 (澤谷 子どもの権利相談員)

IV 広報・啓発活動



「吐き出すということ【千と千尋の神隠し】」

飯村子どもの権利相談員

(在籍期間：H30.4～R3.3)

【はじめに】

今年度は、コロナの影響で映画館の上映作品が大幅に減ってしまいました。そんなコロナ禍の中、過去のジブリ作品4つが特別に上映されました。そのうちの一つ「千と千尋の神隠し」について、僕が中高生の頃にDVDで何度も観たことがありましたが、映画館で観たことは一度もなかったので、10数年振りに観に行くことにしました。

昔からこの映画を観た後、何となく気持ちが落ち着くというか、どこか不思議な気持ちになったのを覚えています。どうしてそういう気持ちになったのか？久しぶりに映画館でじっくりと本作品を觀賞して、その理由が少し分かったような気がしました。

本作品の大きなテーマは『主人公(千)』の成長だと思えます。しかし、その裏側には別のテーマがいくつも隠されていると言われています。今回のコラムではその裏側のテーマに注目したいと思えます。

【隠されたテーマ“吐き出す”ということ】

本作品では“自分の中に溜まった物を吐き出す”というシーンが何度か出てきます。1つ目が、ドロドロに汚れた『腐れ神』が、千の働く『お風呂屋さん(油屋)』にやって来るシーンです。

腐れ神のあまりのニオイに、近づいた従業員はみんな嘔吐しそうになりますが、千は腐れ神を一人のお客として丁寧に迎え入れます。そして、汚れを落としていく中で、腐れ神の身体の中にたくさんのゴミが溜まっていることに気が付きました。

千は先輩の『リン』達に協力してもらいながら一生懸命ゴミを引っ張り出します。そして、身体の中のゴミがキレイに取れた腐れ神は“本来の姿(河の神様)”を取り戻し、夜空へと飛んでいきました。このシーンは、腐れ神が直接汚れを吐き出した訳ではありませんが、千や油屋の従業員達が“腐れ神の中の汚れを吐き出させる手伝いをした”と考える事が出来ます。

2つ目は、本作品の中で何度も千を助けてくれた『ハク』が『湯婆婆(ゆばーば)』の呪いで死んでしまいそうになるシーンです。ハクという名前自体、“吐き出す”と関連しているとも考えられますね。竜の姿で苦しむハクに、千は『ニガダンゴ』を食べさせました。ニガダンゴはその名の通りとても苦いので、ハクは抵抗しますが、千は頑張らせて食べさせ、呪いの元である『黒い虫』を吐き出させます。その後、ハクは人の姿に戻り、何とか一命を取り留めました。そして、呪いから解放されたハクは、千のお陰で本当の自分の姿を取り戻し、湯婆婆の弟子を辞める決意をしました。

3つ目が、油屋の従業員を飲み込み、お店の食べ物を食い荒らしていた『カオナシ』のシーンです。元々は、とても存在感の薄かったカオナシですが、千に優しくしてもらった事をきっかけに油屋に潜り込みます。“千が欲しい”カオナシは、あの手この手を使って千を誘いますが、ことごとく相手にされません。カオナシを心配した千は、残りのニガダンゴを食べさせますが、それでも落ち着きません。千を強烈に求めるカオナシは、今まで食べた物を吐き出しながらも、死に物狂いで千を追いかけ回します。千を追い続け、油屋の外まで行った時には、最初に食べた従業員(カエル)も吐き出し、元のカオナシの姿に戻っていました。

どうやらニガダンゴには、身体の中に溜まった悪い物を吐き出させる力があったようです。映画の

中で千がニガダンゴを食べるシーンもありますが、ただ「苦い！」というだけで特に吐き出す物はありませんでした。それだけ、千の心と身体はキレイな状態だということを表しているのかもしれませんが。

空っぽになったカオナシは、千と一緒に『銭婆（ぜにーば）』の所へ行き、ようやく自分の居場所を見つける事が出来ました。

【本当の自分を見つける】

『腐れ神』『ハク』『カオナシ』は千の力を借りながらも、自分の中に溜まった悪い物を吐き出します。そうして、本当の自分の姿を取り戻していきました。また、僕自身も、この“吐き出す”シーンを劇中で何度も観ていたので、まるで、自分の気持ちが浄化されたかのように感じていたのかもしれませんが。

本作品では、目に見える分かりやすい物（食べ物等）を吐き出す対象としていましたが、僕たち人間は日常的に、“感情”や“ストレス”などの、目には見えない物を、自然と溜め込んでいっているのかもしれませんが。そして、溜め込んだ物を上手く消化できず、気持ちが落ち込んでしまったり、トラブルを引き起してしまう事も少なくはないのでしょうか。

感情やストレスの吐き出し方は人それぞれで、色々な方法（音楽を聴く、お風呂に入る、運動する等）があると思いますが…とてもシンプルで効果的なのが、“自分の気持ちを誰かに聞いてもらう”ということではないかと思います。なので、もし「相談したい」「自分の気持ちを聞いて欲しい」と思っている人がいたら、あまり一人で抱え込まずに『千と千尋の神隠し』を観る(笑)。または、アシストセンターに相談してみてもいいと思います。

気持ちを吐き出す中で、本当の自分が見えてくるかもしれませんよ？

「農作業は辛い役に立つ」

近藤子どもの権利相談員

(在籍期間：H30.4～R3.3)

降り積もった雪が解けると、風の弱い早朝から家族総出でハウスにビニールをかけ、種を蒔く。農家の一年の始まりです。

春はお米や野菜の種まき、苗植えに大忙し。田植えが終わってひと段落したかと思えば、我が家では50mほどのハウス2つ分になったピーマンが次々と大きくなり、収穫と選別に追われる日々。秋に近づくと、今度は広大な畑で玉ねぎと長ネギが収穫を迎え、稲刈りが終わると冬にようやくひと休みです。

私は、この農作業に駆り出されるのが苦痛で苦痛で仕方なかったのです。休みの日はゆっくり寝ていたいし、遊びたい。デパートに行きたくても、家族と畑仕事。もくもくと野菜を採り続けても、楽しくない。コンテナいっぱいの野菜は重たくて、疲れる。農家なんて、嫌だ…。私は高校卒業後に家を出ました。

「野菜が高い…。ピーマンがかたい…。トマトが…青い…」一人暮らしを始めてから、私は野菜の値段を知り、スーパーで野菜を買う、不思議な経験をしました。

福祉施設に就職して初めて、ご飯が冷凍できることを知ったときには、かなりの衝撃でした。実家では、新鮮な野菜と、炊きたてのご飯が当たり前で、その環境は普通ではない、農家の特権だったと離れてわかりました。

「枝豆を寄贈したいので、収穫を手伝ってほしい」とのことで、子どもたちと職員で、とある農家さんに伺ったときのことで。枝豆を2つ3つ採り始めたとき、「あなた、農家の娘さん？慣れているのが見ればすぐにわかるよ」と農家のおじさんが声を掛けてくれたのです。すごく照れくさくて、でも、ちょっと得意げな気分になったことを覚えています。

農作業は、力仕事もあれば、単調な仕事を黙々と続けることもあります。それが、社会にでてから、ちょっとしたことで活かされる機会が意外とあったのです。「あれだけ嫌だった農作業が役に立つなんて…」と始めは悔しいやら嬉しいのやら…戸惑いながらも、血肉となっていたのかと感じられるたびに、過去を肯定できて少し救われたような気がしました。

だからといって、今、悩んでいる子どもたちに、「辛いこともいつか自分の糧になるよ」とここで伝えるには、なんだか違うような気もしています。それは、当時の私だったら、「そうは言われても、嫌なものは嫌だし、辛い」と、きっと思ったからです。それだったらまずは、辛い気持ちや悩んでいることを精いっぱい受け止める、理解することから始めようと、私は思うのです。

「もし、当時の私がアシストに相談していたら…？私は気持ちが軽くなっていたらどうか？そして、相談員の立場だったら、どんな言葉を掛けるだろうか？」

そんなことを思いながら、バルコニーで年々増え続けている、かわいい多肉植物の冬支度をしています。

相談員のコラム

「みなさんは、3種類の趣味を持っていますか？」

澤谷子どもの権利相談員

(在籍期間：H31.4～R3.3)

心の健康を保つ上で、『趣味は3種類持つと良い』と言われていています。自宅で過ごす時間が多くなってきた今、私自身も、改めて趣味を持つことの大切さを実感しました。

3種類と言われる内の1つ目は、『受動的な趣味』です。テレビを見たり本を読んだり、ネットサーフィンをしたりすることもこれに当たりますね。

2つ目は、『クリエイティブな趣味』。絵を描いたり料理を作ったり、何かを作り出すことを指します。

3つ目は『能動的な趣味』です。スポーツや旅行、アウトドアなど、能動的に身体を動かしたり他人とコミュニケーションを取ったりすることが含まれると思います。

私が思う3種類の趣味を持つメリットは、心や身体の調子に合わせて、楽しみを選ぶことが出来るところだと思います。例えば受動的な趣味は、スマホ一つあれば楽しめるものも多いので、疲れている時でも比較的手を出しやすいですね。(でも、寝る直前はブルーライトのデメリットがあるので気を付けて！)

この一年間は、例年と比べて退屈だと感じた人が多かったのではないのでしょうか。私の周りでも、年代を問わず「何も出来なかった」「つまらなかった」と話す人がとても多いです。『能動的な趣味』の比重が大きい人は、移動を制限されることによって、時間を持て余すことが増えてしまったのかもしれないですね。

一年を振り返ってみると、私は特に『クリエイティブな趣味』に力を入れてきたように思います。どれもバランス良く楽しめるのがベストかもしれませんが、その時々、自分の調子に合わせて偏りがあっても良いですね。選択肢を増やせることが、3種類の趣味を持つ大きなメリットだと思います。

そうは言っても、『趣味』を見付けるのは難しいと感じている人も多いのではないのでしょうか。これは、きっと大人も子どもも共通した悩みですね。私自身、今新たに趣味を開拓するとなると、やっぱりちょっと難しいかもしれません。

難しいなりに、自分が興味を持てるものってなんだろう？と考えてみると、子どもの時に好きだったものが思い浮かびます。中学、高校、大学……大人になっていくにつれて離れて行った『好きなもの』に、今改めて触れてみることも、新鮮な気持ちになれるものですね。

趣味を3種類持つこと。

大人の皆さんは、そうして子どもの頃を振り返ってみてほしいです。子どもの時に自分が好きだったものは、今でも好きなものにたどり着くきっかけになってくれるかもしれませんよ。

そして子ども、学生の皆さんは、とにかく、色んなものに触れてみた方が良いと思います。勉強でも漫画でもゲームでも、なんでも良いです。大人になってからでももちろん遅くはないけれど、好きなものには早い内に出会えるに越したことはないので、積極的に『面白そうなこと』に挑戦してみてくださいね。外出を制限されている今だからこそ、出来ることも多いはずですよ。